

History of Asahi Ward

# 旭区 地域史

大阪市旭区地域史づくりワークショップ

たかどのみなみ

## 高殿南 編

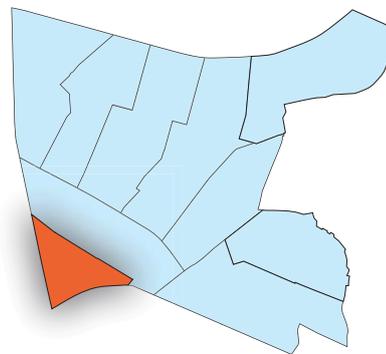
昔の高殿南方面(関目のガスタンク)

区民による地域史づくり・人づくり

平成21年3月

いまむかし

旭区の今昔を知る会  
大阪市旭区役所



# 旭区地域史

区民による地域史づくり・人づくり 大阪市旭区地域史づくりワークショップ

平成20年度実施地域 清水・新森・高殿南

## はじめに～地域史について

■この「旭区地域史」は、地域の歴史を発掘する区民の取り組みとして、平成20年5月27日から平成21年3月5日の約10ヶ月間に計11回ワークショップを開催し、その成果として参加者の手によって作成されたものです。ワークショップは、地域史の作成とともに、「知って得する旭学講座」などで積み重ねてきた経験等を活かした人材の育成、活動を通じて地域コミュニティのさらなる向上を図ることも目的としています。

■ワークショップに参加された方は、これまで地域を研究されていて歴史について大変知識のある方から、旭区にずっと住んでおられるが地域の歴史をあまりご存じでない方までいらっしゃいましたが、「地域史をつくる」という1つの目標に向かって一丸となり取り組みました。

■今後は、旭区民が作成した初の「地域史」として、多くの方々に興味を持っていただき、地域のコミュニケーションを高めるツールや学校の教材など、様々な場面で活用されていくことが期待されます。

■地域史の作成にあたり、各種資料をご提供いただいた関係機関の皆様、心からお礼を申し上げます。



■ 第1回(平成20年5月27日)



■ 第2回(平成20年7月10日)



■ 第3回(平成20年9月3日)



■ 第9回(平成21年1月27日)



■ 第10回(平成21年2月16日)



■ 第11回(平成21年3月5日)



■ 第4回(平成20年9月25日)  
まちあるき(鶴見緑地)



■ 第5回(平成20年10月7日)  
まちあるき(清水・新森)



■ 第6回(平成20年10月22日)



■ 第7回(平成20年11月5日)



■ 第8回(平成20年12月4日)

- 旭区でそれはいつから始まったのか? ..... 3
- 地域の移り変わり ..... 4
- 高殿南のテーマ ..... 5
- ワークショップの活動記録 ..... 6
- 中橋 ..... 7
- トロリーバス ..... 9
- 城東貨物 .....10
- 運搬自転車 .....11
- 京街道七曲り .....13
- 高殿の思い出 .....14
- ガスタンク .....15

明治以降の旭区のおゆみ



明治	4年 (1871)	廃藩置県(大阪府を置く) 旭区域は摂津県東成郡に属す
	6年 (1873)	千林小学校創立
	8年 (1875)	淀川修築工事着工 水制(ケレップ)工事が始まる 中村小学校(現、城北小学校)創立
	18年 (1885)	淀川左岸決壊し、大洪水が起こる。翌年にかけてコレラが大流行
	22年 (1889)	市制町村制施行(大阪市発足) 旭区域は東成郡のまま 清水、古市、城北村がこの頃成立。
大正	29年 (1896)	淀川大洪水 翌年から淀川改良工事が始まる
	43年 (1910)	京阪電車開通(天満橋~五條間) 蒲生・野江・森小路駅開設
	45年 (1912)	この頃、千林商店街ができる。
	6年 (1917)	城北村に初の上水道給水
	7年 (1918)	米騒動が起こる
昭和	11年 (1922)	古市・清水小学校創立 関西工学専修学校(現大阪工業大学)創設
	13年 (1924)	古市耕地整理組合設立 城北村で共同浴場開設
	14年 (1925)	大阪市第二次市域拡張 旭区域が市域に編入され東成区に
	15年 (1926)	城北土地区画整理組合設立
	2年 (1927)	京阪国道(現、国道1号)の舗装工事始まる 京阪電鉄にロマンスカー登場
	3年 (1928)	片町~森小路、東野田6丁目~森小路1丁目間で区内初の市バス運行。
	4年 (1929)	区画整理事業による町名変更が行われる(昭和20年まで) 森小路、北船場、大宮で土地区画整理組合設立。
	5年 (1930)	榎並之荘、清水で土地区画整理組合設立。
	6年 (1931)	市電都島~守口間開通 森小路遺跡が発見される
	7年 (1932)	旭区が誕生(東成区から分区) 新森中央公園開園
	8年 (1933)	京阪国道(現、国道1号)開通 京阪電鉄蒲生~守口間高架複々線工事完成
	9年 (1934)	城北公園開園 室戸台風襲来
	12年 (1937)	御堂筋竣工
	15年 (1940)	城北運河(現、城北川)完成
	18年 (1943)	南半分が城東区、一部が都島区となり、現在の旭区となる。旭公園開園
20年 (1945)	大阪市東北部大阪大空襲(6月7日) 終戦(8月15日)	
24年 (1949)	旭区役所庁舎再建(火災焼失のため)	
28年 (1953)	台風13号による大洪水が起こる	
32年 (1957)	今里~守口間でトロリーバス運転開始 ダイエー1号店が千林にオープン	
38年 (1963)	太子橋中公園開園	
39年 (1964)	城北公園に菖蒲園開園	
43年 (1968)	阪神高速道路北浜~森小路間開通	
44年 (1969)	市電全廃	
45年 (1970)	豊里大橋完成、平太の渡し廃止 旭区役所新庁舎完成 万国博覧会開催	
46年 (1971)	阪神高速道路守口線開通 旭区全域が下水処理区域になる	
48年 (1973)	城北運河魚釣り場オープン	
49年 (1974)	城北運河歩行者専用道路完成 大阪市分区により26区に	
50年 (1975)	旭図書館、区老人福祉センター開設	
52年 (1977)	地下鉄谷町線都島~守口間開通 千林大宮、太子橋今市駅設置。	
58年 (1983)	淀川大堰竣工	
平成	元年 (1989)	菅原城北大橋開通 大阪市合区により24区に
	2年 (1990)	国際花と緑の博覧会開催
	6年 (1994)	旭スポーツセンター開設
	12年 (2000)	旭区民センター・芸術創造館・旭図書館完成
	14年 (2002)	旭屋内プール、城北市民学習センター開設。

※「ぶらり探訪 旭の見どころ・知りどころ」より抜粋



# 旭区でそれはいつから始まったのか？

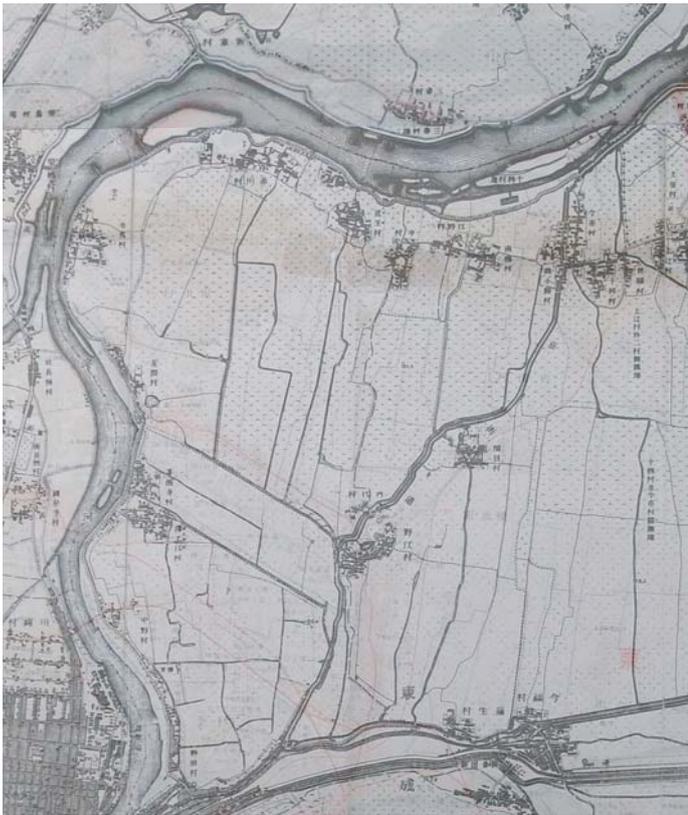
資料提供：小井戸茂

項目	年代	摘要
電気	明治43年	京阪電鉄毛馬火力発電所より供給開始
水道	大正11年	城北地区一部で送水開始、大正13年に古市・清水地区まで普及
ガス	昭和3年	大阪ガスが旭区へ供給開始、昭和6年に区内全域に供給
私鉄	明治43年	京阪電車開通、森小路駅開設。昭和6年に新線(B線のみ)へ移転
市電	昭和4年	都島本通～今市間開通、昭和6年に今市～守口間開通
市バス	昭和3年	森小路1丁目～片町間運行開始、昭和6年に森小路8丁目まで延長
トコバス	昭和32年	守口～今里間運行開始、昭和45年に廃止
地下鉄	昭和52年	谷町線都島～守口間開通
公園	昭和7年	森小路中央公園開園、次いで昭和9年に城北公園開園
郵便局	大正6年	特定局森小路郵便局開局（ただし集配は本局鯉江郵便局）
電報	昭和8年	森小路郵便局で取扱い開始
電話	明治35年	今福郵便局電話分室で交換事務開始
警察署	昭和16年	旭警察署開署、以前は今福、網島、守口3署の管轄
消防署	昭和23年	旭消防署開署、以前は今福消防署の管轄
区役所	大正14年	東成区役所出張所を千林に設置、昭和7年に旭区役所新設
保健所	昭和16年	森小路保健所開所（大宮2）、昭和38年に新庁舎へ移転
税務署	昭和7年	旭税務署開署（野江中3）、昭和41年に新築移転
総合病院	昭和7年	区内にはなし。最寄り大阪高等女子医学専門学校付属病院開院
市民病院	昭和28年	市立城北市民病院開院、平成5年に市立総合医療センターに併合
大学	昭和24年	摂南工業大学発足（半年後に大阪工業大学と改称）
実業高校	大正12年	京阪商業仮開校、公立では昭和12年に第六職工学校開校
普通高校	昭和28年	府立旭高等学校開校（設立当初は府立第48高等学校）
新制中学校	昭和22年	市立旭第一中学校開校、昭和24年に旭陽中学校と改称
小学校	明治6年	組合立千林小学校創立、大正11年に古市・清水両小学校に分離
養護学校	昭和15年	市立思斉学校開校、昭和32年に思斉養護学校と改称
幼稚園	昭和13年	私立新森幼稚園開園、公立では昭和52年に市立旭東幼稚園開設
保育所	昭和8年	市立生江保育所開所
図書館	昭和50年	旭図書館開館、平成12年に現在地に移転
映画館	昭和12年	江南キネマ開館
大相撲	昭和12年	大阪国技館開館（関目は当時旭区）、昭和16年に中止
水都祭	昭和38年	旭区淀川河畔で開催、昭和49年まで。以後天神祭奉賛行事に併合
ラジオ	大正14年	(社)大阪中央放送局放送開始、昭和6年頃から受信機普及
テレビ	昭和28年	NHK本放送開始
地方銀行	大正9年	加島銀行森小路出張所開店
都市銀行	昭和8年	三和銀行森小路出張所開設、昭和13年に支店に昇格
近代工場	明治30年	奥村織布工場開業、旭区の工業の始まり
市場	大正9年	古市村営公設市場開場（後の森小路公設市場）
スーパー	昭和27年	ニチイ千林店発足（赤のれんが改組）、後のスーパーへ
百貨店	昭和6年	高島屋森小路店開店、のち斜め向かいへ移転
近代的国道	昭和8年	国道2号（別名京阪国道）開通 ※現在は国道1号
高速道路	昭和43年	阪神高速森小路線開通
運河	昭和15年	城北運河完成（昭和12年に古市橋開通）
渡し船	明治37年	平田の渡し（豊里村営で）。延宝4年(1676)以降個人経営
市議員	昭和4年	現旭区出身の第1号 寺西圓治郎氏
水洗便所	昭和47年	今福下水処理場完成で実現
町会隣組	昭和15年	昭和22年に解散、現行の制度は昭和50年に旭区地域振興会発足から
現住居表示	昭和46年	町は削除、丁目・番・号制に改正…新地名登場(高殿、新森、清水、太子橋)



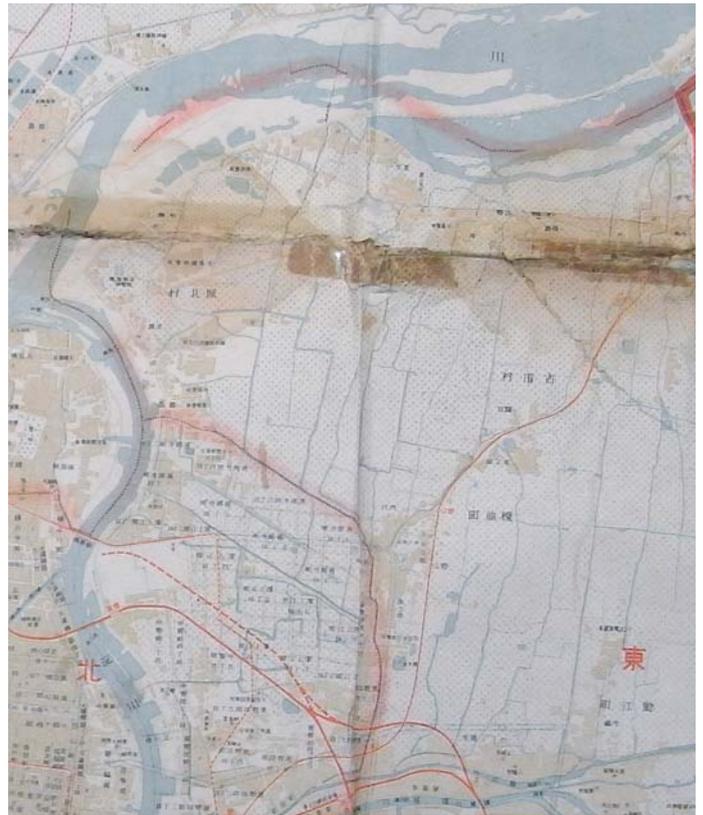
# 地域の移り変わり

協力：大阪市史編纂所



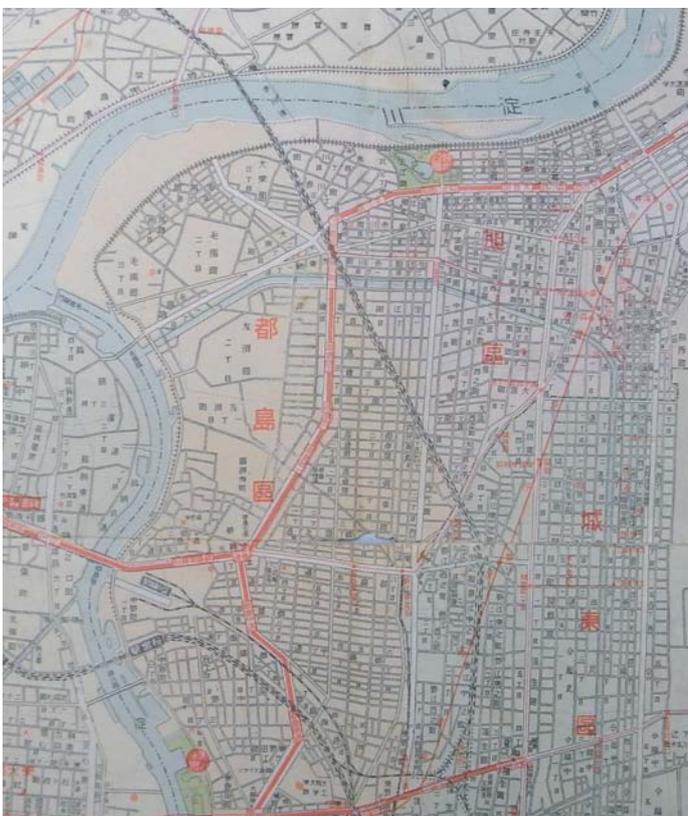
■明治20年(1887年)の旭区周辺

1887



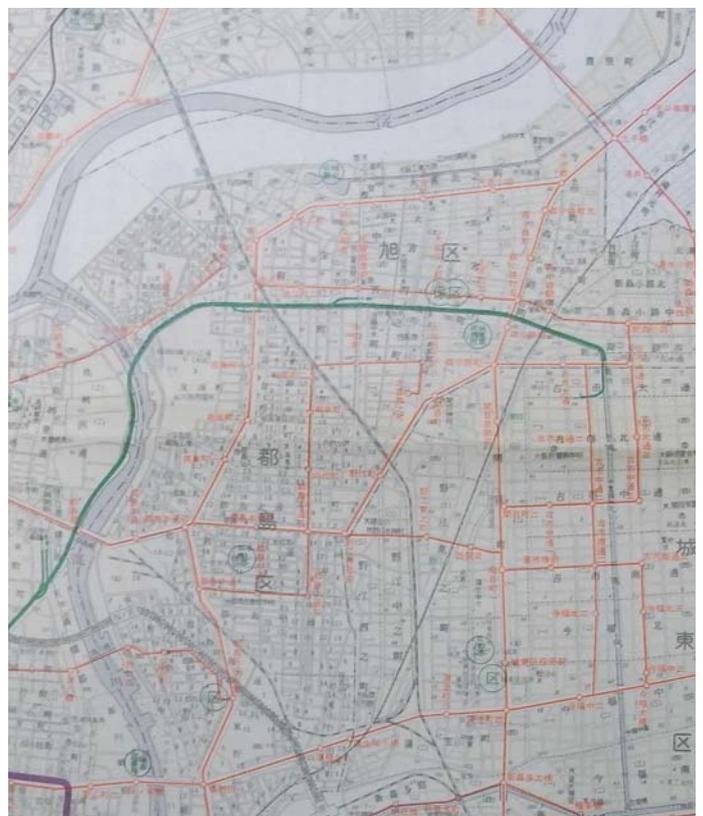
■大正14年(1925年)の旭区周辺

1925



■昭和29年(1954年)の旭区周辺

1954



■昭和45年(1970年)の旭区周辺

1970

# 高殿南



takadono-minami  
 大阪市旭区  
 高殿3丁目・4丁目

## 高殿南のテーマ



京街道の七曲がり(まちあるきの様子)



平成20年度地域史づくりワークショップメンバー敬称略・50音順

- 上田(勢) ■上田(信) ■上田(泰) ■宇陀 ■遠藤 ■小椋 ■鎌田(愛) ■鎌田(信)
- 草木 ■小林 ■島津 ■竹中 ■富増 ■豊田 ■中村 ■原田 ■福田

# ワークショップの活動記録

ワークショップ開催日	議論のポイント・内容
第1回 平成20年5月27日	してみたいこと・テーマの種を出し合う
第2回 平成20年7月10日	テーマを決める・見学やまちあるきの企画①
第3回 平成20年9月3日	テーマを決める・見学やまちあるきの企画②
第4回 平成20年9月25日	まちあるき①【鶴見緑地】
第5回 平成20年10月7日	まちあるき②【清水・新森】
第6回 平成20年10月22日	まちあるき③【高殿南】
第7回 平成20年11月5日	まちあるきの整理・担当テーマを決める
第8回 平成20年12月4日	持ち寄った資料を束ねる・発表会の検討①
第9回 平成21年1月27日	持ち寄った資料を束ねる・発表会の検討②
第10回 平成21年2月16日	持ち寄った資料を束ねる・発表会の検討③
第11回 平成21年3月5日	持ち寄った資料を束ねる・発表会の検討④
<b>成果発表会</b> 平成21年3月21日	旭図書館多目的室において、 地域史づくりワークショップ発表会 「旭区 いま・むかし」を開催



### 【プログラム】

- ①千林商店街の変遷
- ②映像で見る旭区
- ③平太(平田)の渡しを調べて
- ④旭図書館の蔵書紹介(旭区の歴史の調べ方)
- ⑤昔の高殿南
- ⑥新森中央公園と市バスの変遷
- ⑦地域史「清水」



# 中橋

なかはし

10月22日の関目・高殿地区探査も興味深いものがあった。その記録である。

「なかはし」は旧中宮町に流れていた京街道沿いの小川に架かる石橋である。復員幅員1,4m長さ3,2m四隅に疑惑宝珠のある小粒ながらも立派な小橋である。今はそれと教えてもらわないと気をつかない遺跡となっている。もちろん表示板もない。

この橋は昭和9年版の地図(図1)で図中○で示したものと推測した。これは近くを通る城東貨物船・国道架道橋から歩測して200歩約130mであり、地図上の4,5mmとよく符合することで証明される。今は国道商店街で覆われているこの小川も昭和初期までは存在していた。

京街道はその後改修されながら国道となり、この付近では京阪電車と併用していた。更に今の国道1号線が別ルートで開通し都島通となった。商店街とガードに国道の名を残している。

〈草木〉 (※地図の変更に伴い、一部内容を変更)



■ (図1)昭和9年頃の橋の位置(資料:大阪市史編纂所)

■現在、旭区には18橋ある。

(大阪市土木局が管理する橋が17橋あり他に国土交通省が管理する城北橋がある)

■最も古い橋として残っているのが、大正3年に架けられた中橋である。

■高殿4丁目1の大宮東南内代水路という、今は水の無いところに現存している。

■石版橋として長さ3.9メートル、幅1.4メートルの橋である。

■大正3年、旭区はまだ大阪府に属さない東成郡の時代で農業地帯であった。

■大正14年、大阪府に編入され昭和に入ると、耕地地区画整理・土地区画整理が急速に進められ、住宅地・工業地帯へと変貌した時代を過ごしてきた記念碑的な橋である。

■親柱が3本残っている。中橋・大正3年6月・なかはしと刻まれている。

■旭区では親柱は他に、統一樋管水路に架かり大和橋・三郷水路に架かっていた両国橋が記念碑として残っている。

■親柱の名前の彫り方は楷書の漢字・ひらがな、草書の漢字・ひらがなで書くのが一般的であるが、この中橋は建築年を彫りこんである。〈富増〉



■現在の橋の位置



■現存する橋の親柱

# トロリーバス

## トロリーバスとは

A: 架線(トロリー)から2本のポールで電気エネルギーを集電してモーターで動力を得るが、レールのない道路上をゴムタイヤで走行する乗り物。

B: 車両の建設には路面電車と同じ軌道法。車両の運行にはバスなみの道路交通法(日本では)。非常にカタク表わしているが簡単に言えば電気(バッテリーでなく)で動くバスなのである。

## 開業

大阪市で路面電車・バス・地下鉄について4番目の事業として、トロリーバスが開業したのは昭和28年9月1日、大阪駅前から神崎橋(5.740km)間である。当時ガソリンバス(フロントエンジンボンネットバス)の定員は45~60名程に対して、トロリーバスの定員は75名で、排気ガスが無く騒音も少なく、路面電車に比較し、建設費が安く、機動性に富み、ゴムタイヤのため加速度が大きく、勾配に強く、レールがないので運行上自由度が高く、エネルギーも国内資源(水力発電)に頼れるというところに期待され建設された。

次に開業したのは昭和32年4月1日、守口車庫前~今里(7.433km)間で、このとき国道1号線の太子橋~今市~森小路一丁目(現:高殿)を通ったのが旭区で初めてである。



■ 梅田阪急前を走るトロリーバス (写真: 大阪市交通局百年史・本編・資料編)

# 路線

そのあとつぎつぎ路線が延び昭和35年9月27日、大阪駅前～森小路一丁目(現:高殿)(5.806km)が開業し、大阪市内のトロリーバスが全線つながった。その他の路線も延び昭和37年7月10日最後の開通時に市の北部から東部に連らねる最大37.9kmに及ぶ路線網を形成した。(最盛期、134両の車両、利用者1日18万人)しかし、箱形のボディのリアー又は、センターアンダーガソリンバス(定員60～80名)出現し(大阪市バスは昭和29年登場)、トロリーバスは、道路が過密になり、架線の制約から逃れられないことや床下に多くの電気機器を吊り下げているため、水に弱く道路が冠水すると(得に

京阪関目ガード)通れないことや、トロリーバスの値段が非常に高く性能が良くなり大型化するガソリンバスに比べると劣るところが目立ちだした。

トロリーバスの架線(トロリー)



■昔の国道1号(写真:中村英祐)



■現在の国道1号(写真:中村英祐)

昭和45年6月15日、大阪市のトロリーバス事業は守口車庫前～杭全町間の営業を最後に全廃された。17年間の短い生涯を閉じました。〈上田(勢)〉

〈参考文献〉大阪市営交通90年のあゆみ  
早すぎた終焉(トロリーバス事業廃止25年  
周年記念)

## 城東貨物

城東貨物線は吹田操車場から市内の淀川貨物駅と放出を經由して関西線竜華操車場に至る貨物専用のバイパスルートとして昭和4年3月14日に開通している。竜華から関西線や阪和線へと繋がっていた。この地区では線路の北側法面(斜面)尻が昭和18年4月1日旭区から城東区に分割された際、区界として用いられた。まだ田畑の多い地域ではあったが、盛土高架として建設された。それでも交差できる道路はガード部(架道橋)のみで河川と同じように、街並みを分断していて境界線にふさわしい。

さきの国道架道橋と都島通との交差点はまさに旭区・城東・都島の3区境である。このあたりのガードは北から、高殿南小学校の角の交差点が大宮架道橋、そして第三野江・国道・第二野江・第一野江・北口と架道橋が続いている。これらはいずれも創建時のものと思われ、一部鉄桁に改良の後が見られる。

〈草木〉



■現在のガード写真

## 運搬自転車

運搬自転車の特徴は大きさが普通自転車とだいたい同じだが、前後のタイヤが倍以上太く、荷台も大きく頑丈に出来ていた。

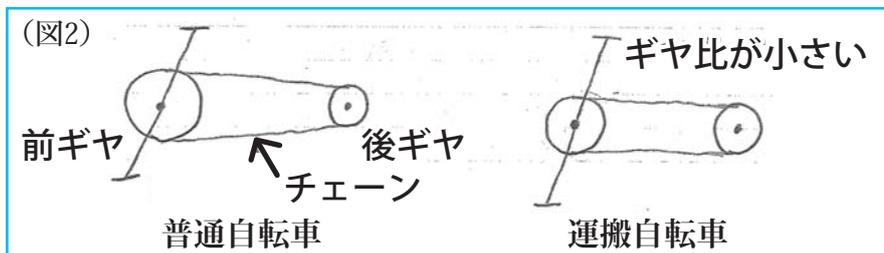
荷物を高く積むために鉄製の門形金具(図1)で、荷物を支えるような物がついているタイプもあった。普通自転車に比べて運搬自転車の前のギヤ径は小さく、後ろのギヤ径が大きい(図2)ので重い荷物を乗せてもペダルを踏み込む力は普通自転車とあまり変わらなかった。(それでも前のギヤ径は後ろのギヤ径よりは大きい)但し、運搬自転車はギヤ比が小さいので荷物なしで走ってもスピードがあまりでなかった。



■ サイドカーを付けた運搬自転車(京阪滝井駅近くにて/平成20年撮影)

また、写真の様にサイドカーを付けて、材木屋は材木を建具屋は襖や障子を配達し、左官屋は左官道具を大工は大工道具やはしごをのせて現場まで利用していた。また、運送屋、畳屋、古道具屋、家具屋、行商の人達は運搬自転車の後にリヤカーを付けてそれぞれの荷物を運んでいた。リヤカーも大型・小型もあった。

サイドカー付運搬自転車や、リヤカーを付けた運搬自転車は今で言えば軽4のトラックや軽4のバンみたいなものです。



# 街中を走る

運送屋などは戦前より小回りのきく三輪トラック、電気屋とか牛乳屋などは昭和30年代頃よりダイハツミゼットを使い始めましたが、戦前より昭和30年代後半までは街中での小型荷物運搬は人力つまり、自転車が多かったようです。

つい最近まで運搬自転車(単独)は京阪千林駅の近所のクリーニング屋さん、今市商店街の製麺屋さん、豆腐屋さんなどが使っていた。

今でも街中で運搬自転車を使っているのを見かける。現在も京阪滝井駅近くの材木屋さんは、サイドカー付運搬自転車を2台使っています。入りくんだ道を行ったり、駐車に便利のため利用しているらしいです。

昭和30年代ぐらいまで、まだ街中では乗用車やトラックが少ない頃、商店や家庭ではちょっとした荷物を運ぶのに普通自転車(現在:郵便配達に使用されているタイプの自転車)が使われていて、少し重いめの荷物は運搬自転車が使われていた。

燃料屋はマキ、練炭、豆炭、プロパンガスボンベ等、酒屋はビールや酒の箱等、米屋は米袋等を乗せて配達していた。氷屋も、氷と目の粗いのこぎりを積んで注文を受けた店の前で自転車を止めて、氷をノコギリで5分の1ぐらい切り目を入れ、ノコギリの背で「コン」と切り割って、必要な分を店に配達していた。

牛乳屋もミルクの入った瓶の箱を荷台にのせ、ハンドルに空き瓶を回収して入れる大きな丈夫な袋を左右に引っかけて牛乳を配達していた。〈上田(勢)〉

## 自転車税があった

自転車税を納税した人、又は自転車には自転車鑑札(かんさつ)がわたされた。

(旧布施市の自転車の鑑札)

①



〈説明〉

①写真のアルミの鑑札を自転車のハンドルに付ける  
(今で言えば車のナンバープレートである)

昭和26年度市税実収表 大阪市	
普通税	
市民税	77,520,343円
固定資産税	100,229,229円
自転車税	1,667,610円
荷車税	119,400円
電気ガス税	33円

『旭区政誌』より

②



②自転車から持ち主が離れる時は、真ん中の数字の所をスライドさせてはずして持って行く。それがかぎ代わりになる

③



③数字の部分がない状態で自転車を乗っていると、盗難車となりオマワリさんに捕まる。

■ 自転車鑑札写真提供: 上田(勢)

# 京街道七曲がり

きょうかいどうななまがり



## 京街道(七曲がり)

大阪城が完成し、豊臣秀吉が文禄3年(1594)伏見城築城の際、大阪城下町整備に大阪城から桃山城、伏見城を結ぶ街道を整備。同時に淀川左岸の枚方から長柄付近まで連続堤防を築いた。

起点は大阪城の北橋口。京橋口より北へ直線に内代の水神社から高殿4丁目南側を通り、蛇行し曲がりくねった道になり、高殿7丁目へ。この付近の道を七曲がりと言う。

慶長5年(1600)関ヶ原の戦いに勝利した家康が、幕藩体制を維持するため、東海道の整備。当時品川宿から大津宿の53次が大阪宿が終結に。元和元年(1615)西国大名の参勤交代路の目的で京街道に追加され(5.5km)起点が大阪高麗橋に。〈遠藤〉

## 京街道の七曲がり

旭区高倉4丁目から京街道付近

日本式築城の名残である、大阪城と姫路城と比較してもその精神は変わらない。合戦を想像すると攻める側は、大阪城を目標として行軍してくるが、急に城が見えなくなる守る側は、そこに待ち受ける側が頑張ってお守り。敵の状況は丸見えであり、石落ち、銃眼によって固く守られており攻める側は全く攻めるも逃げるも完全に身動きのない状態に陥ってしまう。

姫路城でもその規模は大小あるが様式は全く変わっていないように七曲がりは小さな要塞であった。〈小林〉

## 〔大宮神社の一の鳥居〕

大宮神社の横の道を直ぐ京街道と交差したところといわれており、大宮神社の氏子は相当大きかったようで祭りには通行人で賑わったと思われる。〈小林〉



■現在の七曲がり付近

## 高殿の思い出

今から1800年前は、今の高殿の周りは海でした。深い地面の中から貝殻などが見つかるなど、そこからも想像できます。

高殿小学校付近では「州(しま)」になっていて、「南島」と呼ばれていたそうです。

南島に大宮神社があり、境内にあった一番高いところに建てられた建物跡の所に、高殿と名前がつけられた。大宮神社より高殿小学校前を通り、高殿4丁目の京街道に参道があり、高殿4丁目の高殿小学校付近に鳥居があった。道の脇には井路川が流れていたとの事。

又、高殿南は人が住まず、全体が湿地帯で井路川が網の目のように流れていた田沼地で、水に通じた農作物を耕作していたと思われる。内代、関目、南島、中村、に住んでいた人達は、三枚板と呼ばれる5m位の舟で、水路を利用して出来た作物や、肥料の移動手段として井路川を利用していた。現在は井路川は全く無く、うめられて道路となっているのが多い。

最近の高殿は、明治18年に淀川がつけかえられ、京阪電車が明治43年開通(天満橋～京都五条間)蒲生、野江、森小路の各駅。昭和2年国道1号線舗装工事が始まる。

昭和3年区内初市バス(片町-森小路)、(東野田6丁目～森小路1丁目)。

昭和6年市電開通(都島～守口)、昭和7年旭区誕生(東成区分区)、昭和32年今里～守口間トrolleyバス運転開始。ダイエー1号店平林に開店。昭和52年地下鉄(都島から守口)

高殿は、低農村地域から労働集約町へ変化し、2,000人口から10万人口へと交通の便利な町になりました。大阪市営バス、地下鉄(谷町線と今里筋線)、京阪電車が走っています。

国道1号線は東へ行くと東京まで、西は梅田新道へ、国道2号線で下関か九州へ。

阪神高速道路が走り、名神、中国道、山陰道へと連絡して住みよい町となりました。

高殿小学校1975年に児童が1,600人を超え、1980年に高殿南小学校ができました。〈遠藤〉

# ガスタンク

過疎地に大阪ガス(株)のガスタンク(高殿4丁目14付近)あったが、石炭ガスから天然ガスと変化してガスタンクは不要となり撤去された。

◆高殿南地区(高殿2丁目2～3～5～6)の住民達が、大宮神社の夏祭の時ダンジリ引いてにぎやかにしている。

◆大阪空襲の時の1トン爆弾が高殿2丁目5(城北菅原道)で電気工事の時発見され撤去された。〈遠藤〉



■城北公園から見るガスタンク(写真:中村英祐)

国道1号線

京阪本線

京阪森小路駅

(現)高殿小学校

関目のガスタンク



■旭区南部の航空写真(昭和17年頃)  
(大阪市計画調整局より資料提供)

高殿交差点

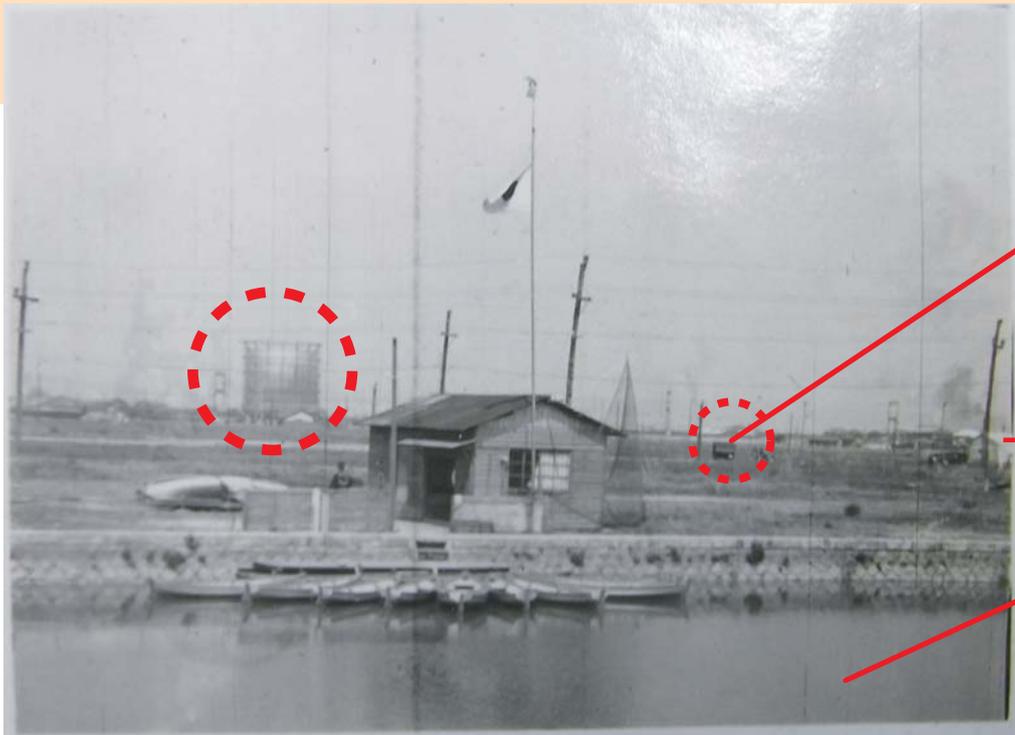
城北運河

【写真下】新森2丁目より新森1丁目の貸しボート屋を写す。

中段右端より、左端まで京阪の高架並びに、京阪の架線をささえる鉄骨あり。

中段右より3cmに黒い長方形新森1丁目より高殿7丁目に抜けるガードあり。〈上田(勢)〉

← 関目駅方向



京阪高架

→ 森小路駅方面

城北運河(川)

■昭和10年代(写真:豊田)



# 旭区地域史

区民による地域史づくり・人づくり 大阪市旭区地域史づくりワークショップ 【高殿南編】

平成21年3月

- 編集／旭区いまむかしの今昔を知る会
- 発行／大阪市旭区役所区民企画担当
- 協力／総合調査設計株式会社

この冊子は、区民の方が中心となって現地確認、聞きとりなどの調査、情報収集をして作成しました。

## 旭区の今昔を知る会からのお願い

旭区の地域史づくりにご協力ください。

旭区の歴史を子どもたちに残すため、みなさんが持っておられる古い写真や資料をお貸しください。

- 江戸時代や明治時代から昭和40年代頃までの、旭区の風景、行事などを写した写真、又は古い資料や道具などなんでも結構です。
- お借りしました写真や資料等は大切に取り扱い、写真データ等におさめた後、返却いたします。
- お借りしました写真や資料等は、地域史作成のための資料や地域史に掲載させていただくほか、旭区役所が実施します各種事業に使用させていただく場合がありますので、ご了承をお願いいたします。  
なお、地域史は今後数年かけて作成する予定ですので、お借りしました資料等の掲載にはお時間がかかることがあります。  
詳しくは旭区役所区民企画担当(企画振興)までお問い合わせください。

## 「旭区いまむかしの今昔を知る会」とは

平成18年度から公募で集まったメンバーで、区内10地域の身近な歴史や思い出などをとりまわめて、順次「地域史」を作成しています。本会では、地域史の作成を通じて、これまで積み重ねてきた経験等を活かした人材の育成、コミュニティのさらなる向上を目指すものと考えています。



平成21年3月

本内容に関するお問い合わせは  
大阪市旭区役所区民企画担当まで  
tel06 ( 6957 ) 9734